



麻布幼稚園だより 12月号

平成29年11月30日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

『やる気とは…』

園長 大島 美知代

2学期は大きな行事が続きます。「親子運動会」に続き、今度は園児の描く・作る活動を主に見ていただく「作品展」を開催しました。お子さんの作品はいかがだったでしょうか。

そして、「作品展」当日は園児同士が関わる活動も見いただきました。年長組の作品は、10月30日に全員で経験した「花やしき」の遊園地の遠足が生きていました。園に戻ってから「遊べて楽しいところを作ろう！」とがんばって製作に打ち込みました。その「きく組花やしき」では年長組が言葉をかけ、お客様を呼び込み、親切に、少し重くても元気よくちびっこタクシーを押す姿、お化けになって相手が楽しいと思うように脅かす姿、自分たちはくるくる回ってくたびれるけれど、お客さんを喜ばせようとスワンを何周も押し、回る姿に感動しました。保護者のみなさんもきっと同じ気持ちだったのではないのでしょうか。

そこで思い浮かんだのは『やる気』という言葉です。

○幼稚園の教育は「**環境による教育**」と言われます。それは、

- ・いかに園児たちが主体的に取り組めるような「**環境**」を用意するか。
- ・いかに園児たちが作りたい、作ってこんな遊びをしたい！と思って取り組める「**環境**」を用意するか。
- ・自分一人で作る時、描く時にも、もしかしたらうまくいかずに投げ出したくなる場面に出合うこともあります。しかし、気持ちを直して前向きに取り組み、自分でできたと見えるような「**環境**」をつくるか。
- ・大きな物を製作する時は友達と一緒に活動することが必然的に起こります。一緒のグループの友達の言うことだけを聞いているだけでなく、自分の気持ちを勇気をもって、友達に伝えて分かってもらおうと思うような「**環境**」をつくるか。
- ・時には友達との気持ちのずれを体験し、悔しい思いをすると作りたなくなる思いをすることもあります。でも、最後まで取り組まないとできません。いかに自分の気持ちや行動を調整できるように支える「**環境**」を作るか、等々です。

この**環境**とはだれが作るのでしょうか。幼稚園では教員であり、家庭では園児を一番理解している保護者です。「環境」とは物的なものだけではなく、「人的」環境も入ります。どのように我が子の気持ちを理解し、「やる気」をもたせるかが問われます。甘えたいけど甘えられずに思いとは逆の行動に出ることもあります。時には「パパの方が好き！」なんて言われる場合もありますが、その子の心の根本を見極め、なぜ、このような言動をするのかを理解し、真の気持ちを素直に出し、「やる気」に満ちた行動を出させるのは大人の大切な役割だと思います。この作品展では園児は先生のつくる「やる気」がもてる「環境」の中でこの作品展に取り組めたと思いました。年少組も、年中組も「やる気」になる「環境」を先生はつくり、興味・関心に合った教材を整え、温かく見守っていました。楽しくて、誇らしくて素敵な作品に囲まれた「作品展」だったと自負しています。

本日は保護者の「やる気」に満ちた「おもちつき会」がお陰様で終わりました。PTA [おもちつき委員] の皆様、本当にありがとうございました！